

三井港倶楽部

三井港倶楽部は、三池港の開港と同じ 1908 年に完成した。三池炭鉱を運営していた三井グループが所有していた。外国船の船長や役員が休息し楽しむことができるように、港の喧騒から離れた場所に建てられた。三井グループの社交の場として、政治家や実業家にも利用されていた。日本人客用に和様式の建物がクラブハウスの隣に建っていたこともあった。

洋風の 2 階建てのクラブハウスには、1 階に居間、応接間、食堂、ビリヤード室、給仕場、化粧室、浴室があった。2 階にはホール、応接間、寝室が 3 室あった。屋根裏は使用人の寝室だった。1986 年に改装された木造建築は、アーチ型の天井、暖炉、錬鉄製の門やフェンスを残している。

第二次世界大戦後、連合国軍総司令部がこの建物を接收し、庭園の奥の部分はテニスコートとして使用された。現在は芝生の広場となっている。

現在、クラブハウスは三井松島グループの会社が所有し、フレンチレストランや結婚式場として利用されている。大牟田市の有形文化財に指定されている。